

令和7年度小坂井商工会 地域経済動向調査報告書

報告書の概要

I. 地域経済動向調査について

II. 経済動向調査分析内容

- ① 【 全 業 種 】
- A 【 建 設 業 】
- B 【 製 造 業 】
- C 【 卸 売 業 】
- D 【 小 売 業 】
- E 【 飲 食 ・ 宿 泊 業 】
- F 【 サ ー ビ ス 業 】
- G 【 そ の 他 】

I. 地域経済動向調査について

1. 目的

このアンケート調査は、小坂井商工会地区内における地域経済の動向を把握するため、商工会会員を対象に実施したものです。その分析結果は、本商工会ホームページ等を通じて事業所に提供し、事業継続に必要な材料の発掘につなげることを目的としています。

2. 調査対象時期

調査期間は令和7年4月1日から令和8年2月2日までです。

3. 調査方法

調査対象：小坂井商工会 会員事業所

調査手法：郵送・Google フォームによるアンケート調査

配布数・回収数：配布数 309 事業所 回収数 61 事業所(回収率 19.7%)

[業種別回収状況]

●	【 建設業 】	25 回収事業所数
●	【 製造業 】	9 回収事業所数
●	【 卸売業 】	2 回収事業所数
●	【 小売業 】	4 回収事業所数
●	【 飲食・宿泊業 】	5 回収事業所数
●	【 サービス業 】	9 回収事業所数
●	【 その他 】	7 回収事業所数

4. 分析方法

各質問項目について、「増加(上昇等)」と回答した事業所の割合から「減少(悪化等)」と回答した事業所の割合を差し引いた指標(DI)を中心に分析しています。

報告書に記載されている DI 数値と天気マークとの関係は次のとおりです

快晴	晴れ	薄曇	曇	雨
				
DI 100.0 ~ 60.1 ←景気が良い	DI 60.0 ~ 20.1	DI 20.0 ~ △20.0	DI △20.1 ~ △60.0	DI △60.1 ~ △100.0 景気が悪い→

※DI(景気動向指数)とは、「増加(上昇等)」と回答した事業所の割合から「減少(悪化等)」と回答した事業所の割合を差し引いた値です。例えば、10社のうち2社が増加、3社が減少と回答した場合、DIは $(2/10 \times 100) - (3/10 \times 100) = \Delta 10\%$ となります。

数値がプラスであれば景気は上向き、マイナスが大きいほど企業の景況感が悪いことを示します。

II. 経済動向調査分析内容

【全業種】～【その他】まで 小坂井商工会会員 の調査内容を記載しています。

令和7年4月1日～令和8年2月2日までの景況

①【全業種】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数:61 事業所

業況	昨年と比べて					令和8年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	6	32	22	△ 26.7		5	35	18	△ 22.4	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	18	21	22	△ 6.6		12	30	17	△ 8.5	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	2	12	46	△ 73.3		3	10	44	△ 71.9	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	10	18	33	△ 37.7		7	22	30	△ 39.0	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	7	41	13	△ 9.8		4	41	14	△ 16.9	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	8	40	13	△ 8.2		4	49	6	△ 3.4	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	11	36	14	△ 4.9		6	31	21	△ 25.9	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和7年度(△26.7)、令和8年度(△22.4)と依然としてマイナス圏が続く。
- ・売上高: 令和7年度(△6.6)、令和8年度(△8.5)とやや低迷。
- ・仕入価格: 深刻な高騰が継続(△73.3 → △71.9)。
- ・経常利益: 令和7年度(△37.7)、令和8年度(△39.0)と収益悪化が顕著。
- ・設備投資: 令和7年度(△4.9)、令和8年度(△25.9)と大幅に落ち込む見通し。

→ 総じて、仕入価格の深刻な高騰が全業種に影響を及ぼし、経常利益を大きく圧迫している。売上・業況ともにマイナス圏で推移しており、先行き不透明感から令和8年度の設備投資意欲が大きく後退している。

A【建設業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

●調査対象事業所数: 25 事業所

業況	昨年と比べて					令和 8 年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	3	14	8	△ 20.0		2	13	8	△ 26.1	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	7	7	11	△ 16.0		4	8	12	△ 33.3	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	0	8	13	△ 68.0		2	5	16	△ 60.9	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	4	8	13	△ 36.0		3	7	14	△ 45.8	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	3	18	3	△ 4.0		2	16	6	△ 16.7	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	4	18	3	4.0		2	20	2	0.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	3	19	3	0.0		1	14	8	△ 30.4	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和 7 年度(△20.0)、令和 8 年度(△26.1)と悪化傾向。
- ・売上高: 令和 7 年度(△16.0)、令和 8 年度(△33.3)と大幅減少予測。
- ・仕入価格: 依然として高い水準で上昇傾向(△68.0 → △60.9)。
- ・経常利益: 令和 7 年度(△36.0)、令和 8 年度(△45.8)とさらに悪化。
- ・設備投資: 令和 7 年度は横ばい(0.0)も、令和 8 年度は減少(△30.4)。

→ 仕入価格の高騰が利益を圧迫しており、令和 8 年度は売上高の大幅減が見込まれ、厳しい状況が続く。
これに伴い、設備投資も抑制される見通し。

B【製造業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数: 9 事業所

業況	昨年と比べて					令和 8 年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	1	3	4	△ 37.5		1	4	3	△ 25.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	2	3	4	△ 22.2		3	3	2	12.5	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	2	0	7	△ 55.6		1	0	7	△ 75.0	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	1	2	6	△ 55.6		3	1	4	△ 12.5	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	1	5	3	△ 22.2		2	4	2	0.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	2	5	2	0.0		1	6	1	0.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	2	5	2	0.0		1	4	3	△ 25.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和 7 年度は大幅な悪化(△37.5)、令和 8 年度はやや改善(△25.0)。
- ・売上高: 令和 7 年度(△22.2)から令和 8 年度はプラス圏(12.5)に回復予測。
- ・仕入価格: 上昇がさらに強まる見込み(△55.6 → △75.0)。
- ・経常利益: 令和 7 年度の深刻な悪化(△55.6)から令和 8 年度は改善(△12.5)。
- ・設備投資: 令和 7 年度は横ばい(0.0)、令和 8 年度は減少(△25.0)。

→令和 8 年度は売上や利益に回復の兆しが見られるものの、仕入価格の高騰はさらに厳しさを増すと予測されており、設備投資には慎重な姿勢がうかがえる。

C【卸売業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数:2 事業所

業況	昨年と比べて					令和8年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	0	0	2	△ 100.0		0	0	2	△ 100.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	0	2	△ 100.0		0	1	1	△ 50.0	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	0	0	2	△ 100.0		0	0	2	△ 100.0	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	0	2	△ 100.0		0	0	2	△ 100.0	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	0	1	1	△ 50.0		0	1	1	△ 50.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	1	1	△ 50.0		0	1	1	△ 50.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	0	2	△ 100.0		0	0	2	△ 100.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和7年度(△100.0)、令和8年度(△100.0)。
- ・売上高: 令和7年度(△100.0)、令和8年度(△50.0)。
- ・仕入価格: 仕入価格:全事業所が上昇と回答(△100.0 → △100.0)。
- ・経常利益: 令和7年度(△100.0)、令和8年度(△100.0)と極めて厳しい。
- ・設備投資: 令和7年度(△100.0)、令和8年度(△100.0)。

→ 調査対象数が2事業所と少ないため極端な数値となっているが、コスト増によりすべての指標が深刻な状態にあり、極めて厳しい経営環境にある。

D【小売業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数:4 事業所

業況	昨年と比べて					令和8年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI値		好転	横ばい	悪化	DI値	
	1	1	2	△ 25.0		1	3	0	25.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	1	3	0	25.0		1	3	0	25.0	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI値		低下	横ばい	上昇	DI値	
	0	1	3	△ 75.0		0	1	3	△ 75.0	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	1	1	2	△ 25.0		1	2	1	0.0	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI値		好転	横ばい	悪化	DI値	
	0	3	1	△ 25.0		0	3	1	△ 25.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	0	3	1	△ 25.0		0	4	0	0.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	2	0	2	0.0		1	2	1	0.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和7年度(△25.0)から、令和8年度は好転(25.0)。
- ・売上高: 令和7年度(25.0)、令和8年度(25.0)と増加傾向を維持。
- ・仕入価格: コスト増が継続(△75.0 → △75.0)。
- ・経常利益: 令和7年度(△25.0)から令和8年度は横ばい(0.0)へ回復。
- ・設備投資: 令和7年度(0.0)、令和8年度(0.0)。

→ 仕入価格の高騰という課題はあるものの、売上高は堅調に推移しており、令和8年度は業況DIがプラス圏に回復するなど明るい兆しが見られる。

E【飲食・宿泊業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数: 5 事業所

業況	昨年と比べて					令和 8 年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	1	0	4	△ 60.0		0	1	4	△ 80.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	1	1	3	△ 40.0		0	3	2	△ 40.0	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	0	0	5	△ 100.0		0	0	5	△ 100.0	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	1	4	△ 80.0		0	0	5	△ 100.0	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	0	1	4	△ 80.0		0	1	4	△ 80.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	3	2	△ 40.0		0	4	1	△ 20.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	3	2	△ 40.0		0	1	4	△ 80.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和 7 年度(△60.0)、令和 8 年度(△80.0)と極めて厳しい状況。
- ・売上高: 令和 7 年度(△40.0)、令和 8 年度(△40.0)と低迷。
- ・仕入価格: 深刻な高騰(△100.0 → △100.0)。
- ・経常利益: 令和 7 年度(△80.0)、令和 8 年度(△100.0)と収益悪化が深刻化。
- ・設備投資: 令和 7 年度(△40.0)、令和 8 年度(△80.0)と大幅減。

→ 仕入価格の極端な高騰が直撃し、業況・利益ともに深刻な打撃を受けている。先行き不安から設備投資も大きく抑制されており、非常に厳しい状況。

F【サービス業】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数:9 事業所

業況	昨年と比べて					令和8年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI値		好転	横ばい	悪化	DI値	
	0	8	1	△ 11.1		1	7	1	0.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	3	4	2	11.1		3	6	0	33.3	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI値		低下	横ばい	上昇	DI値	
	0	1	8	△ 88.9		0	2	7	△ 77.8	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	1	3	5	△ 44.4		0	7	2	△ 22.2	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI値		好転	横ばい	悪化	DI値	
	1	8	0	11.1		0	9	0	0.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	1	5	3	△ 22.2		1	7	1	0.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI値		増加	横ばい	減少	DI値	
	4	4	1	33.3		2	5	2	0.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和7年度(△11.1)、令和8年度は横ばい(0.0)まで回復。
- ・売上高: 令和7年度(11.1)、令和8年度(33.3)と順調な増加見込み。
- ・仕入価格: 高騰続く(△88.9 → △77.8)。
- ・経常利益: 令和7年度(△44.4)、令和8年度(△22.2)と改善傾向。
- ・設備投資: 令和7年度(33.3)、令和8年度(0.0)。

→ 仕入コストの上昇負担は大きいですが、売上高が好調に推移しており、令和8年度は利益や業況感も改善していく底堅さがある。

G【その他】

1. 小坂井商工会会員事業所における景況

・調査対象事業所数: 7 事業所

業況	昨年と比べて					令和 8 年度の見通し				
	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	0	6	1	△ 14.3		0	7	0	0.0	
売上高	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	4	3	0	57.1		1	6	0	14.3	
仕入価格	低下	横ばい	上昇	DI 値		低下	横ばい	上昇	DI 値	
	0	2	4	△ 66.7		0	2	4	△ 66.7	
経常利益	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	3	3	1	28.6		0	5	2	△ 28.6	
資金繰り	好転	横ばい	悪化	DI 値		好転	横ばい	悪化	DI 値	
	2	5	0	28.6		0	7	0	0.0	
従業員数	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	1	5	1	0.0		0	7	0	0.0	
設備投資	増加	横ばい	減少	DI 値		増加	横ばい	減少	DI 値	
	0	5	2	△ 28.6		1	5	1	0.0	

●現状と見通し

- ・業況 DI: 令和 7 年度(△14.3)、令和 8 年度(0.0)と改善。
- ・売上高: 令和 7 年度は大幅増(57.1)だが、令和 8 年度は伸びが鈍化(14.3)。
- ・仕入価格: 仕入価格: 高騰続く(△66.7 → △66.7)。
- ・経常利益: 令和 7 年度(28.6)から、令和 8 年度は悪化(△28.6)。
- ・設備投資: 令和 7 年度(△28.6)、令和 8 年度(0.0)。

→ 令和 7 年度は売上が好調であったが、仕入価格の高止まりが徐々に影響し、令和 8 年度は売上の伸び鈍化とともに利益の悪化が予想される。

◆ 全業種の総括

令和7年度の地域経済動向調査の結果を総合すると、前年度よりもさらに厳しい経営環境となっていることが浮き彫りとなった。特に、仕入価格の異常な高騰がすべての業種に重くのしかかり、それが経常利益を大きく圧迫する構造が続いている。一部の業種（小売業やサービス業など）では売上高に底堅さが見られるものの、全体としては先行き不透明感が強く、次年度に向けた設備投資意欲が急激に冷え込んでいるのが特徴である。

・ 業況感

令和7年度の全業種の業況DIは $\Delta 26.7$ 、令和8年度の見通しは $\Delta 22.4$ と、依然として深いマイナス圏から抜け出せていない。

・ 売上

令和7年度の売上DIは $\Delta 6.6$ 、令和8年度は $\Delta 8.5$ と低迷が見込まれる。小売業やサービス業ではプラス圏を維持する見通しだが、建設業などでは大幅な落ち込みが予想されている。

・ 仕入価格

DIは令和7年度 $\Delta 73.3$ 、令和8年度 $\Delta 71.9$ と、前年度（令和6年度 $\Delta 52.9$ ）から極めて高い水準へとさらに悪化している。全業種で強烈なコスト負担を強いられている。

・ 経常利益

DIは令和7年度 $\Delta 37.7$ 、令和8年度 $\Delta 39.0$ と収益悪化が深刻化している。売上が立っていても、仕入価格の高騰分を価格転嫁しきれず、利益率が大きく低下している企業が多い。

・ 設備投資

令和7年度は $\Delta 4.9$ にとどまっていたが、令和8年度の見通しは $\Delta 25.9$ と大幅な落ち込みを見せている。収益の悪化と将来への不安が、事業者の前向きな投資意欲を大きく削いでいる。

<見通しと課題>

1. 歴史的な仕入価格の高騰と、追いつかない価格転嫁・あらゆる業種で仕入価格・原材料費・エネルギーコストの上昇が深刻化しており、これが最大の経営課題となっている。適切に販売価格へ転嫁できない企業は、致命的な利益圧迫に直面している。
2. 業種間で広がる二極化の兆し・小売業やサービス業では売上DIがプラス圏で推移し、一部で業況感の好転が見られる。一方で、飲食・宿泊業や卸売業の各種DIは極端に悪化しており、特定の業界において非常に厳しい状況が続いている。
3. 将来不安による設備投資の急速な冷え込み・令和8年度の設備投資見通しが全業種で大幅なマイナス（ $\Delta 25.9$ ）に転じている。新規展開や生産性向上への投資が停滞することで、中長期的な地域企業の競争力低下につながる懸念がある。
4. 資金繰り悪化への警戒・令和8年度にかけて資金繰りDIが $\Delta 9.8$ から $\Delta 16.9$ へ悪化する見通しである。金融機関との連携強化による資金確保や、抜本的なコスト構造の見直しが急務となっている。

<結論>

令和7年度は、深刻な仕入価格の高騰が地域経済全体に多大な打撃を与え、企業の収益力を大きく低下させる1年となった。令和8年度においてもコスト高の構図は改善する見込みが薄く、利益確保への強い警戒感から設備投資が大きく抑制される見通しである。今後は、自社の提供価値を見直し、いかにして適切な価格転嫁を実現するかが企業の生き残りを分ける最大のカギとなる。あわせて、疲弊する事業者に対する資金繰り支援や、落ち込む設備投資を後押しするための効果的な施策が地域全体として強く求められる。

令和 8 年 3 月 5 日作成
小坂井商工会
電話:0533-78-3333